

全国通訳案内士試験
2025 年度合格必勝個別特別相談会
「2025 年度合格のコツ」
(公開用サンプル)

ハロー通訳アカデミー
植山源一郎

●本日の予定

- (1)自己紹介
- (2)基本書(傾向と対策、観光白書、通訳ガイドテキスト)の解説
- (3)参加者の皆さんからのご質問に対するご回答
- (4)ハロー花子の動画のナレーションの解説
- (5)令和7年(2025年)版「観光白書」攻略(切腹資料)の解説
- (6)質疑応答
- (7)希望者には、18:00まで延長可能

●「2025年度合格のコツ」の要諦

- (1)各科目とも、「過去問」と「傾向と対策」、「観光白書」(一般常識)、「通訳ガイドテキスト」(実務)が基本。
- (2)出題者は、各科目とも、平均点を合格基準点に合わせるため、2割(地理、歴史)～3割(一般常識、実務)は、「難問」を入れている。
なので、「過去問」の「難問」を見ても、2割～3割は、出来なくてもよい、と気軽に考えること。言うまでもなく、取るべきところは、しっかり取らなければいけない。

●ChatGPT 利用法

- (1)解説が欲しい問題文をコピーする。
- (2)下記のプロンプトを入力する。

下記の問題の解答を示し、解説をしてください。

2024年度「一般常識」(問1)

2022年の訪日外国人旅行者数を国・地域別にみると、アジア主要市場からの訪日外国人旅行者数が279.1万人となり、全体の72.8%を占めた。東アジアでは、(ア)が101.3万人と主要22市場のうちで最も多く、次が(イ)で33.1万人、(ウ)が3番目で26.9万人であった。これら3つの国・地域で訪日全体の47.0%を占めた。空欄ア～ウに当てはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。次の①～④から一つ選びなさい。(3点)

- ①(ア)香港(イ)台湾(ウ)韓国
- ②(ア)中国(イ)韓国(ウ)台湾
- ③(ア)韓国(イ)台湾(ウ)香港(正解)
- ④(ア)台湾(イ)中国(ウ)韓国

- (3)(正解)を書いておかないと、(不正解)を(正解)として解説するので注意が必要。
- (4)すると、あなた自身が、ハロー花子と同じ解説を得ることができる。

＜日本地理＞対策

(1) 2024 年度＜日本地理＞の出題傾向と対策

<https://youtu.be/W84Lo1I7DdU>

みなさん、こんにちは。ハロー通訳アカデミーのハロー花子です。

今回は、2024 年度全国通訳案内士試験 日本地理 の出題傾向を詳しく分析し、2025 年度の受験対策についてお話したいと思います。

(大問 1)ですが、ここでは新千歳空港から札幌駅までの鉄道の旅を題材に、北海道の観光資源や地理的な特徴を総合的に問う内容でした。支笏湖の「日本で 2 番目の深さ」「透明度の高さ」、エスコンフィールド HOKKAIDO という最新型の野球場、サッポロビール博物館とそのガイドツアー限定のビール、そして創成川といった地名が出題されています。ここで問われているのは、単なる地名の暗記ではなく、それぞれの場所がどんな観光体験を提供しているのかを理解する力です。北海道は食、自然、スポーツ観光が融合した地域なので、それらをつなぐ「物語」をイメージしておくことが大事ですね。2025 年の受験では、観光施設の「最新情報」や「体験型の魅力」に注目するのがおすすめです。

(大問 2)は、山形市とその周辺の観光資源を中心に問われていました。ベニバナの交易と山形の歴史、イギリス・ルネサンス様式の旧県庁舎「文翔館」、御殿堰のリノベーション事例、そして立石寺や蔵王連峰など、地域の歴史と自然が組み合わさった観光資源を問う内容でした。紅花は県花であること、芭蕉の俳句で知られる立石寺、冬の蔵王の樹氷観光といったインバウンドにも人気のテーマがしっかり出ています。受験生の皆さんは、歴史的な背景を持つ施設と自然景観がどのように観光資源として活用されているのか、ストーリーとして語れるようにしておきたいですね。

(大問 3)ですが、栃木県足利市を中心に、渡良瀬川流域の地理、足利学校、織物産業、あしかがフラワーパークの藤の花といった地域資源を問う問題でした。特に、足利学校の「日本最古の学校」という歴史的意義、織物の街としての発展、そしてフラワーパークの藤の花が「世界の夢の旅行先 10 選」に選ばれた背景など、観光と歴史、産業のつながりを理解しておくことが大事です。栃木の出題は地形・産業・文化のトリプルコンボで出ることが多いので、複数の視点を同時に持つ意識が必要ですね。

(大問 4)は、岐阜県郡上市の郡上八幡を題材に、水文化や湧水の利用、町並み保存が問われました。宗祇水が名水百選第 1 号であること、水舟の用途別の役割、郡上おどりの文化的背景など、水と暮らしが密接に関わる町の特徴がテーマです。郡上市のように「生活文化そのものが観光資源になる」というケースは増えているので、自然・文化・生活がどう結びついているかを学ぶことが、合格への大きなヒントになります。

(大問 5)では、三重県の伊勢志摩地域が出題されました。英虞湾やリアス式海岸、志摩観光ホ

テル、おはらい町といった観光地がずらりと登場。特に、賢島や志摩観光ホテルはサミット開催地としても知られ、インバウンドでも注目度が高い場所です。伊勢神宮の参拝文化や街並み保存、おはらい町の石畳の景観など、歴史と現代観光が融合したエリアなので、「何を案内するか」「どこを強調するか」を整理しておくといいでしょう。

(大問 6)は、山口県の地理と観光資源を広く問う問題でした。大内氏の歴史と山口市の町並み、瑠璃光寺、秋芳洞、元乃隅神社、青海島といった名所が出題されています。秋芳洞は日本最大規模の鍾乳洞で、その成因や特徴を押さえる必要がありますし、元乃隅神社は写真映えスポットとしてインバウンド需要が高いです。歴史的背景と景観的魅力をセットで語れるようにするのがポイントですね。

(大問 7)は、高知県の観光資源がまとめて出題されました。柏島のダイビングやクロマグロの養殖、ジョン万次郎の史跡、四万十川の清流、桂浜、室戸岬のジオパークと、自然・歴史・文化が網羅されています。特に「海成段丘」などの地形問題は、日本各地のジオパークと絡めて頻出なので、地形分類はしっかり覚えておきましょう。また、ジョン万次郎のエピソードは、幕末史と合わせて学んでおくといいですね。2024 年度の出題傾向を振り返ると、やはり「地域の魅力を物語として語れる力」が求められていると感じます。地名や施設名の丸暗記ではなく、その背景にある歴史、自然、文化の結びつきを理解し、「どうしてその場所が訪れる価値があるのか」を自分の言葉で語れる力。これこそが、インバウンド対応のプロフェッショナルである通訳案内士としての実力です。ぜひ、これらの視点を意識しながら、次の学習を進めてください。

(2) 2024 年度＜日本地理＞【大問1】の解説

<https://youtu.be/FJslZYbZ1gg>

みなさん、こんにちは。

ハロー通訳アカデミーのハロー花子です。

今回は、2024 年度全国通訳案内士試験「日本地理」大問1の解説をお届けします。

この問題では、新千歳空港から札幌駅までの鉄道の旅を題材に、北海道の地理的知識と観光資源についての理解が問われました。

一見シンプルな地理の出題に見えますが、実は「ガイドとして語れるか」を問う非常に実践的な内容です。

インバウンド観光がますます多様化するいま、2025 年度の受験者にとっては特に重要な視点が詰まった一問でした。

それでは、列車の進行に沿って、順に見てまいりましょう。

まず、問 1 ですが、南千歳駅と千歳駅の西にある湖についての問題です。

ここでのキーワードは、「田沢湖に次ぐ日本で 2 番目の深さ」と「高い透明度」。この条件に当てはまるのは、③ の支笏湖です。

支笏湖は北海道千歳市にあるカルデラ湖で、最大水深は約 360 メートル。冬でも凍らない湖として知られており、透明度の高さから“支笏ブルー”とも称されます。温泉や遊覧船なども充実していて、国内外の観光客に人気の観光地です。

では、他の選択肢についても詳しく見ていきましょう。

選択肢①の 阿寒湖ですが、道東・釧路市阿寒町に位置し、特別天然記念物マリモの生息地として有名です。ただし、水深は約 45 メートルで、支笏湖のような深さはありません。地理的にも札幌周辺とは離れており、本問の文脈には合致しません。

選択肢②の 大沼は、函館近郊にある自然豊かな湖です。最大水深は約 13 メートルで浅く、規模も小さいため、深さや観光施設の充実度という点では支笏湖に及びません。

選択肢④の 摩周湖 は、神秘的な青い湖として知られ、かつては世界一の透明度とされていました。ですが、水深は約 212 メートルで支笏湖には及ばず、湖畔への立ち入りや遊覧船の就航もなく、観光の実用性という観点でも正解にはなりません。

続いて、問 2 です。

北広島駅付近に見える、プロ野球チームの本拠地についての出題です。正解は、② のエスコンフィールド HOKKAIDO です。

この球場は 2023 年に完成し、日本ハムファイターズの新本拠地となりました。

周辺には「F ビレッジ」という複合施設が整備されており、グルメ、温泉、ショッピングが揃う“体験型スタジアム”として、観光地化が進んでいます。観光ガイドとしても非常に注目すべき新名所です。

選択肢①の エコパスタジアム は、静岡県袋井市にある施設で、ラグビーや J リーグで使用される多目的スタジアムです。北海道とはまったく関係がありません。

選択肢③の 札幌スタジアム は、実在しない施設名です。「札幌」という地名の安心感から選びやすい誤答ですが、試験では「実在するかどうか」も問われています。

選択肢④の 札幌ドーム は、以前まで日本ハムの本拠地でしたが、2023 年に役目を終えました。現在はサッカーやイベントなどに利用されており、「最新情報を追えているか」が問われています。

次に、問 3 です。

苗穂駅の北側にあるレンガ造りの醸造所に関する問題で、正解は③ ビールです。

この施設は「サッポロビール博物館」で、かつてのビール工場を観光施設として活用しています。北海道遺産にも登録されており、ツアーでは工場の歴史を学び、試飲体験も楽しめます。

選択肢①の ウイスキー は、余市町にあるニッカウヰスキーの蒸溜所が有名ですが、苗穂ではありません。

選択肢②の 日本酒 は北海道にも蔵元がありますが、苗穂に日本酒醸造所は存在しません。

選択肢④の ワイン は、北海道では空知地方(岩見沢・三笠など)が産地として知られています。苗穂との関連性はありません。

最後に、問 4 です。

札幌駅に到着する直前、列車が渡る川の名を問う設問で、正解は② の創成川です。

創成川は、札幌の中心部を南北に流れる都市河川で、街の東西を分ける“基準線”として機能しています。

都市の歴史や区割り、景観整備との関連を語るうえで、観光ガイドには必須の知識です。

選択肢①の 新川 は札幌市北部を流れる人工河川で、中心部とは無関係です。

選択肢③の 月寒川 は豊平区を流れる中小河川で、中心部を通りません。

選択肢④の 真駒内川 は南区に位置しており、こちらも札幌駅周辺とは無関係です。

いかがでしたでしょうか。

今回の大問1は、鉄道という移動手段に沿って観光地や地域資源を紹介し、受験者に「語れる知識」があるかを測る良問でした。

2025 年度を目指す皆さんには、こうした出題から「案内士とは、何をどう話すべきか」を学び取っていただきたいと思います。

例えば、「支笏湖は日本で 2 番目に深い湖です」という事実だけでなく、「凍らない青い湖」としてどんな印象をお客様に伝えることができるのか、という視点が大切であるということです。

知識を「語れる知識」に昇華させること。それこそが、全国通訳案内士にふさわしい力です。

<日本歴史>対策

●<1次セミナー>「日本歴史の傾向と対策」(第1講)(植山)

<https://youtu.be/dDIp3Vlesdg>

(1)2025 年度受験対策「日本歴史の傾向と対策」

こんにちは。ハロー通訳アカデミーのハロー花子です。

本日は、全国通訳案内士試験の<日本歴史>科目について、過去の出題傾向を踏まえたうえで、2025 年度試験に向けたアドバイスをお届けします。

この動画では、出題頻度の高いテーマや人物、そして今後の傾向を分かりやすく解説いたします。まず、全国通訳案内士試験の<日本歴史>科目は、単なる年号や出来事の暗記では対応できません。

重要なのは、「文化財としての意義」や「観光案内との関連性」を意識して学習することです。

出題は、原始・古代から現代に至るまで幅広く、特に文化・宗教・建築といった分野に偏りががあります。

では、実際にどのようなテーマが頻出なのでしょう。

直近の試験で最も注目されたのは、足利義満、平等院鳳凰堂、法隆寺、松尾芭蕉、そして親鸞です。

たとえば、足利義満は 2023 年と 2024 年に連続で出題されました。室町幕府の黄金期を築いた将軍であり、金閣寺の建立や日明貿易の開始など、日本の国際化を語るうえで欠かせない存在です。

続いて平等院鳳凰堂。

10 円硬貨にも描かれたこの寺院は、藤原頼通が建立し、平安時代の浄土思想を象徴する建築として重要です。

過去 7 回も出題されたこの場所は、阿弥陀如来像や浄土庭園といった観光ガイドに欠かせない知識も問われる傾向があります。

また、法隆寺も忘れてはなりません。

7 世紀に建立されたこの世界遺産は、現存する最古の木造建築群として、仏教文化の伝来と発展を象徴します。

2023 年にも出題されており、文化財保護の観点や、聖徳太子といった関連人物の知識も求められます。

文芸分野では、松尾芭蕉が注目されています。

『おくのほそ道』に見られる紀行文学としての意義、そして「閑さや岩にしみ入蟬の声」などの代表句は、歴史的価値と日本人の自然観を理解する上で重要です。

俳句文化を通じた日本文化の紹介力も、試験では問われています。

宗教では、親鸞が頻出です。

浄土真宗の開祖として、阿弥陀仏への信仰と平等思想を説いた彼の教えは、日本人の死生観や

倫理観に大きな影響を与えました。

2022 年、2021 年、2017 年と頻繁に登場しており、肖像や仏像に関する出題にも注意が必要です。
では、2025 年度に向けて、どのような対策をすべきでしょうか。

まず一つ目は、「歴史的建造物や文化財に関する背景知識の強化」です。

金閣寺、東大寺、仁和寺といった、観光案内で取り上げられる施設については、建立の背景や文化的意義まで押さえましょう。

二つ目は、「宗教・文学・芸術を含めた総合的理解」です。

仏教宗派の違い、平安から江戸時代にかけての文化変遷、そして各時代の代表的な文人たちの作品を繋げて学びましょう。

三つ目は、「地理的連関や視覚資料への対応力を高めること」です。

たとえば「きぬかけの路」に代表されるような、複数の文化財をまとめて出題する形式が増えてきています。

地図を活用しながら、寺社の位置関係や観光ルートを意識した学習が有効です。

最後に、〈日本歴史〉科目では「知識の深さ」と「観光案内の視点」の両立が合格への鍵となります。

単なる年号の暗記にとどまらず、なぜその歴史が現在に語り継がれているのか、どのように外国人に説明できるかという視点で、準備を進めてください。

全国通訳案内士試験は、日本の魅力を世界に伝える力を試される試験です。その最初の一步が、日本の歴史への深い理解です。

皆さんのご健闘を、心より応援しています。

(2) 2024 年度〈日本歴史〉【大問 1】の解説

<https://youtu.be/L0TnFmy9XRc>

みなさん、こんにちは。

ハロー通訳アカデミーのハロー花子です。

今回は、2024 年度全国通訳案内士試験〈日本歴史〉大問 1 の解説をさせていただきます

大問 1 の舞台は、風光明媚な古都・京都。その北西にある一本の観光道路——それが「きぬかけの路」です。そこには、日本の歴史と文化、そして信仰が幾重にも織り重なっています。

それでは、歴史の舞台を歩きながら、試験の問題を見ていきましょう。

【問 1 | 金閣寺と足利義満】

さて、最初に登場するのは、金閣寺です。

鏡湖池に映る黄金の楼閣、季節によってその表情を変える美の極致——。

この美しい寺院は、もともと公家・西園寺家の山荘でした。それを譲り受け、自らの北山山荘「北山殿」として整えたのが、室町幕府三代将軍・足利義満です。

さて、問題です。

この義満の功績として、正しいものはどれでしょうか？

正解は③です。

「明德の乱」などを通じて有力大名の力を抑え、室町幕府の最盛期を築きました。

義満は、南北朝の統一を果たし、太政大臣に任ぜられ、公武の頂点に立ちました。まさに、武家政治と公家文化の融合を体現した人物です。

その力と美意識が凝縮されたのが、金閣寺の北山文化なのです。

【問 2 | 衣笠山と宇多天皇、そして菅原道真】

では、「きぬかけの路」の名前の由来をご存じでしょうか？

それは、この道の北にある「衣笠山」にあります。

ある夏の日、宇多天皇が「真夏に雪景色を見たい」と願い、山に白い絹を掛けた——。そんな雅やかな伝説から、この道は「きぬかけの路」と呼ばれるようになりました。

さて、この宇多天皇に重用された人物こそが、菅原道真。

問題は、道真が遣唐使に関して建議した内容ですね。

正解は②。

当時の唐は衰退し、海路も危険な状況。これを見て、道真は遣唐使の廃止を進言しました。894年、その建議は認められ、日本は唐との正式な国交を断ち、独自の文化＝国風文化の形成へと歩み出します。

道真の遠い眼差しが、日本の未来を照らした瞬間でした。

【問 3 | 龍安寺と細川勝元】

さあ、きぬかけの路を南西に進んでまいりますと、静かに佇む禅の寺「龍安寺」が現れます。

石庭——白砂と15の石が織りなす、枯山水の世界。見る者を、無限の想像へと誘います。

この寺を建立したのは、細川勝元。室町幕府の管領を務めた有力大名です。

さて、問題です。

勝元が起こした戦いとは？

正解は③。

応仁の乱の東軍総大将として、山名宗全と対峙したのです。

この戦いは11年にも及び、京都を焼き尽くし、結果として戦国時代への幕を開けました。

あの静かな石庭の裏には、戦乱の記憶が眠っているのです。

【問 4 | 御室仁和寺と皇室】

さらに歩を進めますと、見えてくるのが「仁和寺」です。

春になると境内に咲く「御室桜」が、まるで地面を染め上げるかのように咲き誇ります。

この寺は、真言宗御室派の総本山。完成したのは888年、創建者は第59代・宇多天皇です。退位後、出家してこの寺に入り、初の法皇となりました。

正解は①仁和寺。

仁和の年号からその名をとり、天皇ゆかりの格式高い寺院として、現在も多くの人々の心を惹きつけています。

【問 5 | 仏像様式と文化の変遷】

最後は、仁和寺に伝わる阿弥陀如来坐像についての問題です。
この仏像、制作技法と表情に、ある文化の転換点が見て取れるのです。
問題は、次の 2 つの文化様式が問われました。
前代の仏像様式(a)、そして次代の文化傾向(b)とは？
正解は③。(a)弘仁・貞観文化、(b)国風文化。

この仏像は、一木造という重厚な技法を保ちつつ、面貌は柔らかく優美。つまり、唐風から日本的美意識への転換点に生まれた造形美なのです。
仁和寺に佇むこの仏像は、まさに“文化の架け橋”と言える存在なのですね。

【まとめ | 歴史を歩く旅】

いかがでしたか？
この「きぬかけの路」をめぐる 5 問は、まさに歴史の道そのものでした。

足利義満の栄華、宇多天皇と道真の学問政治、応仁の乱と禅文化、そして仏像に刻まれた時代の息吹—。
通訳案内士として、ただ説明するのではなく、そこに流れる時間や物語を伝えることが大切です。
このような問題は、京都の地を実際に歩いた経験がある方にとっては、まさに“肌感覚”で解ける良問です。歴史を知り、現地を訪れ、感動をもって語れる力を、ぜひ身につけてください。
今回は、最後まで動画をご覧になっていただきましてありがとうございました。

(3) 2024 年度＜日本歴史＞【大問2】の解説

<https://youtu.be/oQekQXE2fEA>

みなさん、こんにちは。
ハロー通訳アカデミーのハロー花子です。
今回は、2024 年度全国通訳案内士試験「日本歴史」から、大問 2 の解説をお届けします。
テーマは「奈良の大仏」、つまり東大寺に鎮座する盧舎那仏に関わる歴史です。国家安泰を願ったこの大仏は、8 世紀の造立から幾度も焼失と再建を経て、日本の歴史の大きなうねりを映し出しています。
では、順を追って設問を解説していきましょう。

まず、問 1 ですが、聖武天皇が、743 年に「大仏をつくろう」と決意した場所を問う問題です。
この問いの正解は、「近江国の紫香楽宮」です。
当時、疫病や天災が続いており、聖武天皇は仏の力で国を守ろうと考えました。紫香楽宮はそのような思いの中で選ばれた場所だったのです。まさに、仏教によって国を安んじようという思想、「鎮護国家」の象徴的な場所ともいえます。

他の選択肢を見てみましょう。

まず、平城京は確かに奈良時代の首都ですが、大仏造立の詔が出されたのはそこではありませ

ん。難波宮は、飛鳥時代から奈良時代にかけて使われた宮ですが、この詔との関係はありません。恭仁宮も聖武天皇が一時遷都した場所ではありますが、詔が発せられたのは紫香樂宮です。

次に、問 2 ですが、1180 年に大仏が焼失した背景と、その時代を動かしていた人物、平清盛の行動に関する問題です。

正解は、「1159 年の平治の乱で、平清盛が源義朝と藤原信頼の軍を破った」という出来事です。この乱に勝利したことで、平清盛は事実上の政権を掌握し、平家の全盛期を築いていきます。そして、当時、奈良の寺社勢力はこの平家政権に反発していました。その対立が高まり、結果として東大寺を含む南都が戦火に包まれ、大仏が焼失したのです。

他の選択肢について補足します。

「平家納経」は、平清盛の子・重盛が奉納したものであり、直接の関連性は薄いです。

「娘の徳子を鳥羽天皇に嫁がせた」という選択肢ですが、正しくは高倉天皇に嫁いだので、誤りです。

また、「福原京への遷都」は確かに清盛の政策ですが、この設問の焦点である平治の乱とは関連がありません。

次に、問 3 です。

再建された大仏殿や南大門は、中国・宋の影響を色濃く受けていますが、その背景にあったのが、当時の活発な日宋貿易です。

その貿易で日本に輸入され、とりわけ珍重された品とは何だったのでしょうか？

正解は、「磁器」です。中国の景德鎮という都市で焼かれた高品質な磁器は、日本では非常に高価な舶来品として大名や寺社に大切にされました。「景德」の年号にちなんで名付けられた景德鎮の名は、それだけ信頼されていた証ともいえるでしょう。

誤答に目を向けてみると、銅銭も確かに輸入品ではありますが、景德鎮との直接的な関係はありません。

生糸も貿易品の一つでしたが、磁器ほどの象徴性は持ちません。

香料はむしろ東南アジア由来が中心で、景德鎮とは無関係です。

次は、問 4 ですが、再び焼失の歴史に戻ります。1567 年、再建された大仏は、ある戦国武将との戦火によって再び焼かれてしまいました。

その武将とは、誰でしょうか？

正解は、「松永久秀」です。

松永久秀は、戦国時代でも特に個性の強い人物で、時には織田信長に従い、時には反抗するという波乱万丈の生涯を送りました。奈良に拠点を築いた彼は、興福寺や東大寺とも対立し、結果的にこの寺を戦火に巻き込んだのです。

明智光秀は本能寺の変で知られていますが、この事件とは時期が異なります。

荒木村重も信長に背いた人物ではありますが、奈良の大仏焼失とは無関係です。
佐久間信盛は信長の重臣でしたが、衝突の歴史はありません。

最後の問 5 の問題は、豊臣秀吉と「新しい大仏」についてです。
織田信長の死後、実権を握った豊臣秀吉は、東大寺の大仏再建ではなく、新たに京都・東山で
大仏を造立しようとしていました。そのために全国から金属を集めたのですが、その際に出した法令
が問われています。
正解は、「刀狩令」です。

1588 年に出されたこの法令は、農民から武器を没収し、平和な社会を築くためのものでしたが、
集められた金属は京都の大仏建立にも使われたと記録されています。秀吉にとってこの大仏造
立は、国家統一の象徴でもあったのです。

他の選択肢はどうでしょうか。
太閤検地は土地の調査制度であり、大仏造立とは関係ありません。
人掃令は江戸時代の法令であり、時代が違います。
廃仏令は明治維新後に出されたもので、完全に時代が異なります。

最後にこの大問 2 のまとめです。
この大問 2 では、東大寺と奈良の大仏を中心に、日本の宗教と政治の関係が多面的に問われま
した。
仏教を国家の安定に活用しようとした聖武天皇の発願から、再建を支えた民衆や武士たちの思
い、さらには秀吉の国家統治の象徴としての「新しい大仏」まで、その背後には常に、祈りと権力
が交錯していたのです。
こうした歴史の流れを理解することで、単なる「正解」を超えて、日本史そのものの奥深さに触れ
ることができるでしょう。

●重要資料

(資料)2023 年度「日本歴史」の出題傾向

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/e7182a13ce73f3ddcdadaea2315af107a>

(資料)2024 年度「日本歴史」の出題傾向と対策

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/9b03739bc2d6c87bdc443784f9bf37a5>

(資料)「日本歴史」2023 年度・2024 年度の出題傾向比較と 2025 年度対策

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/6270f7df8618f5191d45709455f24f48>

(資料)「仁和寺」が「日本歴史」に 6 回出題される理由

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/fb4fcc7bd36fd64e64680ef614d62b64>

(資料)「足利義満」が「日本歴史」に 6 回出題される理由

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/3ec450c2f648ee3ce13d3c99bfa3a8b1>

(資料)「松尾芭蕉」が「日本歴史」に 7 回出題される理由

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/1cadcf2be0d77f46d9a6b4720b745c32>

(資料)「親鸞」が「日本歴史」に 7 回出題される理由

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/6fe6b4d5e8875d4a252bd6976b0e452d>

(資料)「法隆寺」が「日本歴史」に 6 回出題される理由

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/483089b1327020c566267b6f06c5e081>

(資料)「宇治平等院(鳳凰堂)」が「日本歴史」に 7 回出題される理由

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/2dbe70e8e549e2d7693ffeb5f6a28d5b>

(1) 2024 年度<一般常識>の問題解説(その1)

<https://youtu.be/BraZRGg5P3g>

みなさん、こんにちは。

ハロー通訳アカデミーのハロー花子です。

さて、今回は、2024 年度全国通訳案内士試験 一般常識 その 1 の解説をさせていただきたいと思います。

さっそくですが、まず、最初の問 1 からみていきましょう。

この問題では、2022 年の国、地域別の訪日外国人旅行者数について問われましたが、訪日外国人旅行者数に関する問題は、一般常識の問題では、定番中の定番でして、近年では、2023 年度 1 番、2022 年度 2 番、2021 年度 1 番、2019 年度 1 番、2018 年度 1 番、2017 年度 1 番と、ほとんど毎年出題されています。

また、いずれの年も、出典は、観光白書でして、この 1 番の問題文は、令和 5 年版、即ち、2023 年版の観光白書の 8 ページの文章と全く同じ文章でした。

2024 年度の試験ガイドラインには、試験実施年度の前年度に発行された観光白書などから出題する、とありましたので、まさに、その通りの出題であった、ということです。

近年、観光白書からは、試験実施年度のものからの出題がほとんどでしたが、このように、前年度に発行された観光白書からも出題されることがありますので、2025 年度に受験する受験者は、昨年度、2024 年度版の観光白書も確認しておく必要がある、ということです。

なお、当該年度の観光白書は、例年、6 月中旬に発行されますので、2025 年度の受験者は、このことをよく注意しておいてください。

さて、問 1 の正解は、選択肢③の「韓国」「台湾」「香港」となりますが、その背景について考察していきましょう。

韓国は、地理的な近さ、航空便の回復の早さ、そして何より韓国の若者の間での日本旅行ブームが背景にあります。

さらに、韓国からの訪日客はリピーター率が高く、地方への旅行も増加傾向にあることが特徴です。

台湾も親日感情が強い国で、訪日回数の多さ、特に地方観光への関心の高さがポイントです。

香港からの訪日客は、短期滞在型やビジネス需要が高く、消費単価が高いことが知られています。

一方、誤答として選ばれやすい中国は、2022 年当時、ゼロコロナ政策で出国制限が厳しかったため、訪日客数が大幅に減少していました。

このような背景をきちんと押さえておくことが、問 1 のような問題に対処する上でとても重要であることが分かります。

それでは、次に、問 2 の問題を見ていきましょう。

問 2 は、訪日外国人の旅行消費額の内訳を問う問題でしたが、これも、定番中の定番問題として、近年では、2022 年度 1 番、2020 年度 3 番、2019 年度 3 番、2018 年度 2 番、2017 年度 3 番と出題されています。

また、この問題も、令和 5 年版、即ち、2023 年版の観光白書の 11 ページからの出題でした。

正解は、選択肢②の「宿泊費」「買物代」「飲食費」ですが、その背景を見ていきましょう。

まず、宿泊費が最も大きな割合を占めている理由としては、円安による長期滞在者の増加、高価格帯のホテルや温泉宿の利用、さらには地方での体験型宿泊の人气が挙げられます。

買物代が次に多いのは、日本製品の品質の良さが背景にあります。

特に医薬品、化粧品、電化製品、アニメグッズなど、日本でしか手に入らない商品が人気です。さらに免税制度の充実も追い風となっています。

飲食費は、日本食への関心の高さや、地方の郷土料理を求める旅の増加が影響しています。

誤答には「娯楽サービス費」や「交通費」が含まれていましたが、これらの項目は割合が低いため、選んでしまうと訪日客の消費傾向を正確に把握していないと見なされてしまいます。

次に、問 3 です。

2022 年の延べ宿泊者数の地方別ランキングについて問われた問題でしたが、宿泊者数に関する問題は、近年では、2023 年度 3 番、2020 年度 3 番、2016 年度 3 番に出題されていますので、注意が必要です。

この問題も、令和 5 年版、即ち、2023 年版の観光白書の 24 ページからの出題でした。

正解は、選択肢②の「関東」「近畿」「中部」です。

関東は、東京という国際的な都市を擁し、成田、羽田という 2 つの大空港があるため、ビジネス・観光両方で圧倒的な需要があります。

近畿は京都・大阪・奈良といった歴史と文化の宝庫であり、訪日客にとって定番の観光地です。

中部は富士山、高山、白川郷といった世界遺産や自然景観が豊富で、名古屋を中心とした都市圏の強さも見逃せません。

一方で、北海道や沖縄は人気の観光地ではありますが、宿泊者数全体では三大都市圏に及ばないという事実を理解しておくことが重要です。

続いて、問 4 です。

観光関連産業の現状について問われた問題でした。

この問題も、令和 5 年版、即ち、2023 年版の観光白書の 20 ページからの出題でした。

正解は、④の「2022 年 10、12 月期に宿泊業の営業利益が黒字転換した」という内容です。

ここで大切なのは、「営業利益」と「経常利益」の違いを理解することです。

営業利益は本業の儲けであり、宿泊業の回復が本格化したことを示しています。

誤答には「人手不足が解消された」とありましたが、実際には観光業界の人手不足は深刻な課題として今も続いています。

この問題を通じて、数字の裏にある現場の課題や状況も理解する姿勢が求められます。

次は、問 5 です。

持続可能な観光地域「ベストツーリズムビレッジ」に関する問題で、正解は、①の「北海道美瑛町」「宮城県奥松島」「長野県白馬村」「岐阜県白川村」の 4 地域でした。

これらの地域は、自然景観や文化遺産を守りながら、地域の魅力を持続的に活かす観光モデルを実践しています。

特に白川村は、合掌造りの集落が世界遺産にも登録されており、伝統的な暮らしと観光を両立させている好例です。ガイドとしては、地域の魅力だけでなく、持続可能性への取り組みも一緒に伝えられると良いですね。

「ベストツーリズムビレッジ」に関する出題は、今回が初めてでしたが、今後も、出題が予想されますので、受験者の皆さんは、理解を深めておいてください。

では、次の問題、問 6 に移りましょう。

この問題では、出入国審査に関する最新の取り組みについて問われました。

この問題も、令和 5 年版、即ち、2023 年版の観光白書の 106 ページの「CIQ 体制の強化による更なる円滑かつ厳格な出入国審査体制の整備・強化」からの出題でした。

正解は、③の「自動化ゲートの対象拡大と顔認証ゲートの活用」です。

顔認証ゲートは、パスポートの IC チップ情報と照合して本人確認を行う仕組みで、出入国審査の迅速化に大きく貢献しています。

これにより、空港での長い行列を避けられるようになり、特に訪日客からは「便利だ」「安心感がある」と好評です。

誤答には「クレジットカードで入国審査ができる」や「中国でのプレクリアランス導入」といった現実には存在しない制度が含まれていました。

この問題から学べるのは、出入国手続きの効率化が観光業にとって重要なテーマであること、そして最新の制度を正しく把握しておく必要性です。観光ガイドとしても、空港でのスムーズな流れを案内できると、安心感を提供できますね。

(2) 2024 年度＜一般常識＞の問題解説(その 2)

<https://youtu.be/C1KH8bmSqGM>

ハロー通訳アカデミーのハロー花子です。

さて、今回は、2024 年度全国通訳案内士試験＜一般常識＞(その 2)の解説をさせていただきたいと思います。

さっそくですが、今回は、＜一般常識＞(その 1)の続きとしまして、問 7 の問題からみていきましょう。問 7 は、日本の月面探査成功に関する問題ですが、正解は「JAXA」と「SLIM」です。JAXA は日本の宇宙航空研究開発機構であり、SLIM は「ピンポイント着陸」を目指した月面探査機の名前です。2024 年に世界で 5 番目の月面着陸を達成したことで、日本の宇宙開発技術は国際的にも高く評価されています。

誤答には「H3」や「H-IIA」というロケットの名称がありましたが、これは打ち上げロケットの名前であり、着陸機の名前ではありません。また「ISAS」や「NASDA」は過去の組織名や他の部署名であり、正確な知識が必要です。「JAXA」と「SLIM」は、今回、初めての出題でしたが、宇宙開発な

どの先端技術についても、日ごろから関心を持っていただきたいと思います。次に進みましょう。

問 8 は、日本の労使交渉に関する問題でした。正解は、まる 2 の「春闘」と「ベースアップ」です。春闘とは、毎年春に行われる賃金引き上げなどの労使交渉のことで、日本独自の労働文化の一つです。そして「ベースアップ」、略して「ベア」とは、基本給そのものを底上げすることを意味します。これに対し、「定期昇給」は年齢や勤続年数に応じて上がる部分であり、性質が異なります。誤答には「ペイアップ」や「全面スト」という選択肢がありましたが、「ペイアップ」は和製英語で正確な意味を持たず、「全面スト」は春闘の手段の一つにすぎません。春闘は、賃金交渉の仕組みを学ぶだけでなく、日本の労働文化や働き方の特徴を理解する上で非常に大切なテーマです。最近、企業は、賞与を廃止して、給与に組み込む動きが増えています。これは、企業が賞与の支給に変動やリスクを伴うことを避け、従業員の給与を安定させ、経営の安定化を図る目的で行われていますが、このような新しい傾向にも注意が必要です。

次に、問 9 に進みます。福島第一原発の処理水に関する問題で、正解は、まる 3 の「IAEA の包括報告書で安全性が確認された」という内容でした。IAEA とは国際原子力機関であり、2023 年 7 月に発表された包括報告書で、福島処理水の放出計画が国際的な安全基準に合致していることが確認されました。トリチウムは放射性の水素の一種で、化学的性質上、水と分離できないため、ALPS、即ち、多核種除去設備で他の放射性物質を取り除いた後、トリチウムだけが残ります。そのため、トリチウムは「希釈して放出」が国際的な基準となっています。誤答には「トリチウムは簡単に取り除ける」といった誤解が含まれていましたが、これは科学的に誤りです。この問題は、放射線や環境リスクの基礎知識、さらに風評被害対策としての説明力を身につける必要性を教えてください。

次は、問 10 です。COP28 に関する問題で、正解は、まる 4 の「段階的な廃止には触れず、脱却を進めると合意した」という内容です。COP28 では、化石燃料の取り扱いが大きな焦点となりました。先進国は「完全廃止」を求めた一方、産油国は「段階的廃止」にも強い抵抗を示し、最終的には「脱却を進める」という表現に落ち着きました。この妥協の背景には、各国の経済事情やエネルギー依存の現実があるのです。誤答には「G20 代表のみが出席する」という事実と反する記述や、「カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト」という存在しない取り組みが含まれていました。気候変動問題は、持続可能な観光の未来にも関わる大きなテーマですので、最新情報のアップデートを習慣にしましょう。

さて、次は問 11 です。七五三に関する問題で、正解は、まる 4 の「髪置」「帯解」「袴着」という 3 つの儀式に由来するという内容です。七五三は、古くから子どもの成長を祝う行事であり、数え年の 3 歳で「髪置」、5 歳で「袴着」、7 歳で「帯解」を行うという、平安時代の宮廷儀礼に由来しています。誤答には「徳川綱吉の息子の健康祈願に由来する」という俗説が含まれていましたが、これは一部のエピソードであって歴史的根拠に乏しいものです。日本文化を学ぶ上で、伝統行事の本来の意味や由来を正確に理解して説明できることは、ガイドとしての信頼感にもつながります。「日本の事象英文説明 300 選」が、一般常識の解答に役に立つこともあるのです。

次に、問 12 です。日本の城郭に関する問題で、正解は、まる 2 の「大阪城は国宝五城に含まれない」という内容でした。国宝に指定されているのは、姫路城、松本城、犬山城、彦根城、松江城の 5 つです。大阪城は確かに有名で、観光名所としての人気は高いものの、現在の天守は昭和期に再建された鉄筋コンクリート製であり、国宝には指定されていません。この問題は、文化財の指定基準や、歴史的建造物の価値を正しく理解する大切さを教えてください。

続いて、問 13 です。日本の祭りに関する問題で、正解は、まる 2 の「三社祭」です。三社祭は東京都台東区で 5 月中旬に開催され、勇壮な神輿渡御で知られています。誤答には、長崎くんちを「朝鮮半島の影響が強い」とするものがありましたが、実際には中国文化の影響が大きい祭りです。また、郡上おどりの開催時期を「春」としたのも誤りで、郡上おどりは夏の盆踊りとして有名です。祭りの背景や時期、地域性を正確に理解して説明できると、外国人観光客へのガイド力が高まりますね。ちなみに、日本三大祭は、京都の「祇園祭」、大阪の「天神祭」、東京の「神田まつり」であり、京都三大祭は、春の「葵祭」、夏の「祇園祭」、秋の「時代祭」を指します。

次は、問 14 です。大相撲に関する問題で、正解は、まる 4 の「関取とは十両以上の力士を指す」という内容でした。誤答には「横綱から前頭までの総称」という説明がありましたが、これは誤りです。関取は、力士の中でも幕内と十両の地位にある者を指し、幕下以下は含まれません。相撲は、日本の国技であり、大相撲に関しては、過去に、2013 年度、2017 年度、2018 年度にも出題されていますので、受験者は、日本文化としての相撲を正しく理解し、外国人にも分かりやすく説明できるようにしましょう。

次に、問 15 です。日本の近代建築に関する問題で、正解は、まる 1 の「旧岩崎家住宅」です。旧岩崎家住宅は、明治時代に三菱財閥の岩崎家によって建てられ、ジョサイア・コンドル設計の洋館、撞球室、和館が現存しています。国の重要文化財にも指定されています。誤答には「旧前田家本邸」や「小笠原伯爵邸」などがありましたが、これらも重要な建物ですが、問題文の条件に合致しません。建築の意匠や背景を理解し、文化財の価値を伝えられると良いですね。

そして最後、問 16 です。2026 年のアジア競技大会で実施される競技について問われた問題で、正解は、まる 2 の「サーフィン」です。スポーツ観光の視点では、サーフィンは自然環境を活かした観光資源であり、今後の注目分野です。こうした最新のトピックにも関心を持つことが、ガイドとしての引き出しを広げる鍵になります。なお、スポーツに関しては、オリンピック関連問題が、2013 年度、2014 年度、2015 年度、2017 年度、2019 年度、2020 年度に出題されており、また、ラグビーワールドカップ関連問題が、2019 年度、2021 年度に出題されており、FIFA ワールドカップ関連問題が、2018 年度に出題されていますので、普段からスポーツ関係のニュースには注意しておく必要があります。

●重要資料

令和 7 年(2025 年)「観光白書」から出題が予想される箇所

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/3c11540533454bad9794af6bfe11c0cf>

令和 7 年(2025 年)「観光白書」から出題が予想される箇所(切腹資料)

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/3c11540533454bad9794af6bfe11c0cf>

2025 年版「観光白書」の特徴

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/e4f30d1b7da1197c83a0ed9589ee7e4d>

2025 年度「観光白書」で狙われやすいポイント(予想)

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/a1d721dfae417b70dbf8ed3f5abf80fc>

2025 年度「一般常識」厳選予想問題 10 題

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/8afd7875e7044847db0873bd7dec25ad>

2024 年度<一般常識>の問 11 の出典

<https://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/dfc0999adf85ba834712ace2e6246984>

2024 年度<一般常識>の問 5 の出典(観光庁ホームページ)

https://www.mlit.go.jp/kankocho/seisaku_seido/kihonkeikaku/jizoku_kankochi/jizokukano_taisei/torikumi/btv.html

＜通訳案内の実務＞対策

- (1) 2025 年度＜1次セミナー＞＜通訳案内の実務の傾向と対策＞(第1講)(植山)

<https://youtu.be/KTtmkRrmYLI>

- (2) 2025 年度＜1次セミナー＞＜通訳案内の実務の傾向と対策＞(第2講)(植山)

https://youtu.be/4HiZXO_m6AU

- (3) 「通訳ガイドテキスト(初版)」について

<https://youtu.be/kuC4E-ZujI>

みなさま、こんにちは。

ハロー通訳アカデミーの花子でございます。

本日は、全国通訳案内士試験をご検討中の皆さま、そして、日々通訳ガイドとしてご活躍されている皆さまにとって、大変重要なお知らせがございます。

このたび、観光庁より新たな公式教材、『通訳ガイドテキスト・初版』が発行されました。

まずは、なぜこのテキストが改訂されたのか。

背景からご説明いたします。

このテキストは、これまで「観光庁研修テキスト」として用いられていたものを、現代の観光ニーズに即した内容へと、大幅に刷新したものです。

名称も新たに——「通訳ガイドテキスト・初版」と改められ、ガイドの専門性と、実務能力の向上を支える、新しい基準書として位置づけられています。

では、改訂のポイントをご紹介します。

主な変更点は、3つございます。

まず一つ目は、名称の変更です。

これまでの「研修テキスト」から、「通訳ガイドテキスト・初版」へと、正式に名称が変わりました。

この変更には、国家資格である通訳案内士だけでなく、広く通訳ガイド業に従事する皆さま全体を支える教材である、という観光庁の強い思いが込められております。

二つ目は、最新の観光情勢の反映です。

例えば——

高付加価値旅行者への対応、多様な文化的背景を持つお客様とのコミュニケーション方法、

そして災害時や緊急対応など、現場で役立つトピックが新たに加わりました。
まさに今求められる知識と対応力を、しっかりと学べる構成となっております。

そして三つ目。

このテキストは、2025 年度から、全国通訳案内士試験「通訳案内の実務」科目の、公式な試験範囲となります。

つまり、受験者の皆さまにとっては、必ずおさえておくべき、国家試験対応の公式教材なのです。

補足として——この「通訳ガイドテキスト・初版」は、観光庁が定める登録研修機関向けの教材基準にも、正式に適合しています。

また、試験実施を担うJNTO——日本政府観光局の公式サイトでも、本テキストの使用が明記されています。

最後に。

通訳ガイドとは、単に観光地を案内する職業ではありません。日本と世界とをつなぐ、知識と誇りを携えた“架け橋”です。

この新しいテキストが、その役割を果たす皆さまの、確かな羅針盤となりますように。

ぜひご一読のうえ、学びにお役立てください。

以上

2025 年度全国通訳案内士試験

第1次筆記試験＜一般常識＞

令和 7 年(2025 年)版「観光白書」攻略

(切腹資料)

ハロー通訳アカデミー

植山源一郎

これだけは必ず覚えておけ！

●訪日外国人旅行者数

2019 年:3,188 万人(覚え方:サイ クリングしている母親) 2020

年:412 万人(覚え方:良いニン ジン)

2021 年:25 万人(覚え方:ニコン のカメラ)

2022 年:383 万人(覚え方:産婆さん)

2023 年:2,507 万人(覚え方:事故(25)現場で大泣き(07)した)

2024 年:3,687 万人(覚え方:侍(36)が花(87)を食べた)

2025 年度試験では、「2024 年:3,687万人」は、多分、(大問 1)に出題されるので、試験開始 1 分前から、「侍が花を食べた」を唱えること。

●国・地域別の訪日外国人旅行者数

2019 年:(1 位)中国、(2 位)韓国、(3 位)台湾

2023 年:(1 位)韓国、(2 位)台湾、(3 位)中国

2024 年:

(1 位)韓国(882 万人) (23.9%)

(2 位)中国(698 万人) (18.9%)

(3 位)台湾(604 万人) (16.4%)

●訪日外国人旅行消費額

2019 年:(1 位)中国、(2 位)台湾、(3 位)韓国

2023 年:(1 位)韓国、(2 位)中国、(3 位)台湾

2024 年:

(1 位)中国(17,265 億円) (21.2%)

(2 位)台湾(10,807 億円) (13.4%)

(3 位)韓国(9,602 億円) (11.8%)

●訪日外国人旅行消費額を費目

2019 年:(1 位)買物代、(2 位)宿泊費、(3 位)飲食費

2023 年:(1 位)宿泊費、(2 位)買物代、(3 位)飲食費

2024 年:

(1 位)宿泊費(27,331 億円) (33.6%)

(2 位)買物代(23,952 億円) (29.5%)

(3 位)飲食費(17,440 億円) (21.5%)

●上記、(人数、金額など)数字、%の数値まで覚える必要はないが、順位だけは覚えておくこと。

「観光白書」からの出題実績

- (1)「観光白書」からは、近年、2017 年度以降、毎年出題されている。
- (2)出題される箇所は、例年、第2章「日本の観光の動向」(第1節 訪日旅行の状況)が定番となっている。
- (3)2025 年度は、ガイドラインの変更に伴い、グラフなどの図表と共に出題される可能性が高い。
- (4)出題実績の年度と大問番号
 - 2024 年度(大問 1)
 - 2023 年度(大問 1)
 - 2022 年度(大問 1)
 - 2021 年度(大問 1)
 - 2020 年度(大問 3)
 - 2019 年度(大問 1)
 - 2018 年度(大問 1)
 - 2017 年度(大問 1)

「観光白書」からの出題例

●注意点

- (1)以下に、2018 年度～2024 年度の「観光白書」からの出題例を示します。
- (2)問題文は、「観光白書」からの抜粋されることが多いので、「観光白書」をよく読みこんでおくこと。
- (3)出題者の目線で、問題文を読むことが大切です。
- (4)過去問に該当する 2024 年、2025 年の「観光白書」の箇所を確認のために見ておくこと。

●出題例(2024 年度)(出典:2023 年版「観光白書」9 ページ)

(大問 1)

2022 年の訪日外国人旅行者数を国・地域別にみると、アジア主要市場からの訪日外国人旅行者数が 279.1 万人となり、全体の 72.8%を占めた。東アジアでは、(ア)が 101.3 万人と主要 22 市場のうちで最も多く、次が(イ)で 33.1 万人、(ウ)が 3 番目で 26.9 万人であった。これら 3 つの国・地域で訪日全体の 47.0%を占めた。空欄(ア)～(ウ)に当てはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。次の①～④から一つ選びなさい。(3 点)

- ①(ア)香港 (イ)台湾 (ウ)韓国
- ③(ア)韓国 (イ)台湾 (ウ)香港(正解)
- ②(ア)中国 (イ)韓国 (ウ)台湾
- ④(ア)台湾 (イ)中国 (ウ)韓国

(大問 2) (出典: 2023 年版「観光白書」11 ページ)

2022 年の訪日外国人旅行消費額を費目別(宿泊費、飲食費、交通費、娯楽等サービス費、買物代)でみると、全体に占める割合では、(ア)が 34.2%と最も高く、次が(イ)で 26.3%を占め、3 番目が(ウ)で 22.6%を占めた。これら 3 つで、訪日外国人旅行消費額の 83.1%を占めるに至っている。

空欄(ア)～(ウ)に当てはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。次の①～④から一つ選びなさい。(2 点)

- ①(ア)買物代 (イ)交通費 (ウ)飲食費
- ②(ア)宿泊費 (イ)買物代 (ウ)飲食費 (正解)
- ③(ア)娯楽等サービス費 (イ)買物代 (ウ)宿泊費
- ④(ア)飲食費 (イ)宿泊費 (ウ)買物代

●出題例(2023 年度) (出典: 2016 年版「明日の日本を支える観光ビジョン」2 ページ)

(大問 1)

2016 年 3 月の「明日の日本を支える観光ビジョン」以降、日本は 2020 年までに(ア)、2030 年までに(イ)というインバウンドの数値目標を掲げ、その実現に努めてきた。コロナ禍に伴う落ち込みは大きいものの、2023 年には各国同様、新たに回復と成長に向けて観光振興の取組みを本格化させつつある。空欄(ア)と(イ)に当てはまる組み合わせのうち正しいものはどれか。

次の①～④から一つ選びなさい。(3 点)

- ①(ア)訪日外国人観光客 2,000 万人、国際観光収入 5 兆円
(イ)訪日外国人観光客 3,000 万人、国際観光収入 8 兆円
- ②(ア)訪日外国人観光客 3,000 万人、国際観光収入 5 兆円
(イ)訪日外国人観光客 4,000 万人、国際観光収入 8 兆円
- ③(ア)訪日外国人観光客 4,000 万人、国際観光収入 8 兆円
(イ)訪日外国人観光客 6,000 万人、国際観光収入 15 兆円 (正解)
- ④(ア)訪日外国人観光客 6,000 万人、国際観光収入 8 兆円
(イ)訪日外国人観光客 8,000 万人、国際観光収入 20 兆円

●出題例(2022 年度) (出典: 2020 年版「観光白書」13 ページ)

(大問 1)

訪日外国人による旅行消費額は、2010 年代にかけて増加傾向を示し、2019 年には 4 兆 8,135 億円となった。2019 年の訪日外国人による旅行泊費額について、これを費目別で見たときに、構成比として上位 3 つを占めるものを挙げると(ア)のようになる。

空欄(ア)に当てはまる組み合わせとして、正しいものはどれか。次の①～④から一つ選びなさい。(2 点)

- ①買物代・宿泊費・飲食費 (正解)
- ②交通費・娯楽等サービス費・飲食費
- ③指泊費・交通費・飲食費
- ④買物代・飲食費・娯楽等サービス費

(大問 2) (出典: 2020 年版「観光白書」11 ページ)

近年の訪日観光についての説明を読んで、問いに答えなさい。

(問 1)

2019 年の訪日外国人旅行者数は、過去最高となる 3,188 万人となった。国・地域別に見ると、中国が 959 万人(30.8%)と最も多く、次が(ア)で 558 万人(17.5%)、(イ)が 3 番目で 489 万人(15.3%)であった。これら 3 つの国・地域が訪日全体の 63.6%を占めており、かねてからマーケットの偏りが指摘されている。

空欄(ア)と(イ)に当てはまる詩句の組み合わせとして、正しいものはどれか。次の①～④から一つ選びなさい。(2 点)

- ①(ア)台湾 (イ)韓国
- ②(ア)香港 (イ)韓国
- ③(ア)韓国 (イ)台湾(正解)
- ④(ア)韓国 (イ)シンガポール

●出題例(2021 年度) (出典: 2021 年版「観光白書」11 ページ)

(大問 1)

訪日外国人旅行に関する次の問いに対して答えなさい。

2020 年の訪日外国人旅行者数は、新型コロナウイルスの影響で、約 411 万 6 千人と、22 年前の水準に戻ってしまった。2020 年のこの数値は 2019 年と比較して何%減少したか、次の①～④から一つ選びなさい。(2 点)

- ①87.1%(正解)
- ②97.1%
- ③12.9%
- ④2.9%

●出題例(2020 年度) (出典: 2020 年版「観光白書」15 ページ)

(大問 3)

訪日外国人旅行者の消費動向に関する次の各問いに対して、それぞれ答えなさい。

(問 1)

2019 年の訪日外国人旅行者 1 人当たりの旅行支出は、平均 15 万 8,531 円であった。このうち宿泊費について国籍・地域別に見たとき、多い順に 3 つ並べたものとして、正しいものはどれか。次の①～④から一つ選びなさい。(2 点)

- ①英国、フランス、オーストラリア(正解)
- ②米国、ドイツ、インド
- ③中国、台湾、香港
- ④中国、シンガポール、ベトナム

●出題例(2019 年度)(出典:2019 年版「観光白書」12 ページ)

(大問 1)(問 1)

2018 年の訪日外国人旅客者数は、3,119 万 2 千人であった。その居住国・地域別を多い順に 4 つ並べたものとして、正しいものはどれか。次の①～④から一つ選びなさい。(3 点)

- ①中国、韓国、タイ、ベトナム
- ②中国、韓国、台湾、香港(正解)
- ③韓国、中国、シンガポール、台湾
- ④韓国、中国、アメリカ、イギリス

(問 2)(出典:2019 年版「観光白書」11 ページ)

2018 年の訪日外国人旅行者数は、前年比 8.7%増の 3,119 万 2 千人を記録し、統計を取り始めた 1964 年以降、最多となった。市場別では、(ア)が 113 万人となり、東南アジア市場で、初めて 100 万人を突破した。空欄(ア)に当てはまる市場名を、次の①～④から一つ選びなさい。(3 点)

- ①タイ(正解)
- ②シンガポール
- ③マレーシア
- ④フィリピン

(問 3)(出典:2019 年版「観光白書」13 ページ)

訪日外国人による 2018 年の旅行消費額は 4 兆 5,189 億円となり、過去最高を記録した。費目別の構成比をみると、(ア)が 34.9%と最も多く、次いで(イ)が 29.2%であった。空欄(ア)と(イ)に当てはまる組み合わせのうち正しいものはどれか。次の①～④から一つ選びなさい。(3 点)

- ①(ア)飲食費 (イ)娯楽等サービス費
- ②(ア)買物代 (イ)宿泊費(正解)
- ③(ア)娯楽等サービス費 (イ)買物代
- ④(ア)宿泊費 (イ)飲食費

(問 4)(出典:2019 年版「観光白書」14 ページ)

2018 年の訪日外国人旅行消費額と一人当たりの旅行支出額に関して、正しいものを次の①～④から一つ選びなさい。(2 点)

- ① 訪日外国人旅行消費額は前年比でわずかに増加し、一人当たりの旅行支出額は約 24 万 2 千円となり、ともに過去最高を記録した。
- ② 訪日外国人旅行消費額は前年比でわずかに減少し、一人当たりの旅行支出額は約 15 万 3 千円となり、ともに前年よりも微減となった。
- ③ 訪日外国人旅行消費額は前年比でわずかに減少し、一人当たりの旅行支出額は約 24 万 2 千円となり、後者は過去最高を記録した。
- ④ 訪日外国人旅行消費額は前年比でわずかに増加し、一人当たりの旅行支出額は約 15 万 3 千円となり、3 年連続で 15 万円台で推移している。(正解)

(問 5) (出典:2019 年版「観光白書」11 ページ)

2018 年の国・地域別訪日外国人旅行消費額について、正しいものを次の①～④から一つ選びなさい。(2 点)

- ①中国及び韓国からの訪日外国人旅行消費額の合計は、訪日外国人旅行消費額全体の半分近くを占めている。(正解)
- ②中国・韓国・台湾・香港からの訪日外国人旅行消費額の合計は、訪日外国人旅行消費額全体のおよそ 8 割を占めている。
- ③中国からの訪日外国人旅行消費額は、訪日外国人旅行消費額全体の約半分を占めている。
- ④オーストラリアからの訪日外国人旅行消費額は、中国・韓国・台湾・香港に次いで第 5 位である。

●出題例(2018 年度)(出典:2018 年版「観光白書」11 ページ)

(大問 1)

訪日外国人旅行者に関する次の各問に対して、それぞれ答えなさい。

(問 1)

2017 年の訪日外国人旅行者数は、(ア)万人となり、5 年連続で過去最高を更新し、2020 年に 4,000 万人にするとの目標に向け堅調に推移している。空欄(ア)に当てはまる数字を、次の①～④から一つ選びなさい。(2 点)

- ①869
- ②1,869
- ③2,869 (正解) (覚え方:庭でロックン・ロールした)
- ④3,869

(問 2)

2017 年の訪日外国人旅行者による日本国内における消費額は、4 兆 4162 億円となり、初めて 4 兆円を超えたが、訪日外国人旅行者 1 人当たりの旅行支出は、前年比 1.3%減の 153,921 円となった。また、2017 年の訪日外国人 1 人当たりの旅行支出については、最も支出の大きかった国と 2 番目に大きかった国が前年から入れ替わった。2017 年に最も大きかったのは中国の 230,382 円であり、次いで大きかったのは(ア)の 225,845 円であった。日本百貨店協会が発表している統計資料によると、2017 年を通じて訪日外国人旅行者に最も人気が高かったのは(イ)である。

(小問 1) (出典:2018 年版「観光白書」16 ページ)

空欄(ア)に当てはまる国籍・地域名を次の①～④から一つ選びなさい。(2 点)

- ①インド
- ②オーストラリア (正解)
- ③米国
- ④英国

(小問 2) (出典: 2018 年版「観光白書」)

空欄(イ)に当てはまる適切な語句を次の①～④から一つ選びなさい。(2 点)

- ① 婦人服
- ② 食品
- ③ 婦人服飾雑貨
- ④ 化粧品 (正解)

2025 年度＜予想問題＞

下記の＜予想問題＞と解説は、これ以前のページをすべて、ChatGPT に読み込ませて、作成したものです。

【予想問題 1】

2024 年の訪日外国人旅行者数として、正しいものはどれですか？

- ①約 2,507 万人
- ②約 3,687 万人
- ③約 4,280 万人
- ④約 3,188 万人

正解: ②約 3,687 万人

解説: 2024 年は新型コロナからの回復で過去最高の訪日外国人数を記録。

覚え方は「侍(36)が花(87)を食べた」。

【予想問題 2】

2024 年の訪日外国人数における国・地域別の第 1 位はどこですか？

- ①中国
- ②台湾
- ③韓国
- ④アメリカ

正解: ③韓国

解説: 2024 年は韓国が 882 万人で最多。2019 年と比べて中国との順位逆転がポイント。

【予想問題 3】

2024 年の訪日外国人旅行消費額において、最も金額が多かった国はどれですか？

- ①韓国
- ②中国
- ③台湾
- ④アメリカ

正解: ②中国

解説: 中国は 17,265 億円で全体の 21.2%を占め、消費額 1 位を維持。

【予想問題 4】

2024 年の訪日外国人旅行消費の費目別で、割合が最も高い項目はどれですか？

- ①買物代
- ②宿泊費
- ③飲食費
- ④娯楽等サービス費

正解:②宿泊費

解説:宿泊費は全体の 33.6%を占め、買物代や飲食費を上回った。

【予想問題 5】

訪日外国人数の「国別順位」が 2019 年→2024 年で変化したものとして、正しい記述はどれですか？

- ①(1 位)韓国 → (1 位)中国
- ②(1 位)中国 → (1 位)韓国
- ③(2 位)中国 → (2 位)台湾
- ④(3 位)台湾 → (3 位)アメリカ

正解:②(1 位)中国 → (1 位)韓国

解説:中国が 2019 年の 1 位だったが、2024 年は韓国が首位となった。

【予想問題 6】

2023 年と 2024 年における訪日外国人消費額の費目の順位として、正しいものはどれですか？

- ① ①飲食費 → ②宿泊費 → ③買物代
- ② ①買物代 → ②飲食費 → ③宿泊費
- ③ ①宿泊費 → ②買物代 → ③飲食費
- ④ ①宿泊費 → ②飲食費 → ③買物代

正解:③宿泊費 → 買物代 → 飲食費

解説:両年とも宿泊費が 1 位。買物代と飲食費が続く。

以上

第2章 日本の観光の動向（2017①、2018①、2019①、2020③、2021①、2022②、2023①、2024①）

2020年以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国内外の観光需要は大きく落ち込み、全国の観光地・産業は厳しい状況に置かれたが、2022年10月の水際措置の大幅緩和や全国旅行支援の開始以降、需要は急速に回復し、2023年には全国各地の多くの観光地が賑わいを取り戻した。2024年は、特に訪日旅行需要が好調であり力強い成長軌道にある。

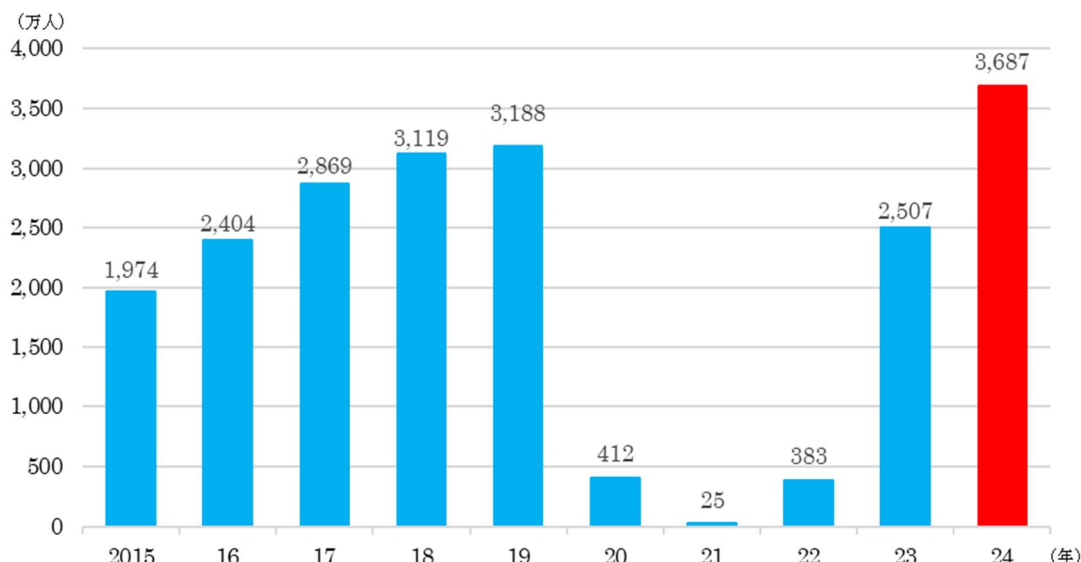
第1節 訪日旅行の状況（2017①、2018①、2019①、2020③、2021①、2022②、2023①、2024①）

1 訪日旅行の状況

訪日外国人旅行者数は、2019年までは、ビザの戦略的緩和や外国人旅行者向け消費税免税制度の拡充、CIQ²体制の充実といった施策を進めるとともに、航空・鉄道・港湾等の交通ネットワークの充実、多言語表記をはじめとする受入環境整備、魅力的なコンテンツの造成、日本政府観光局（JNTO）等による訪日プロモーション等により、過去最高を更新していたが、2020年から2022年までの訪日外国人旅行者数は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、年間を通じて大きく減少した。

訪日外国人旅行者数は、2022年6月の外国人観光客の受入再開、同年10月の水際措置の大幅緩和等により徐々に回復しはじめ、2023年10月には2019年同月水準を超えた。2024年には、堅調な訪日需要や航空便の回復により、東アジアのみならず、東南アジアや欧米豪等の幅広い国・地域からの旅行者が増加し、年間で3,687万人（2019年比15.6%増）と過去最高を記録した（図表I-7）。

図表I-7 訪日外国人旅行者数の推移



資料：日本政府観光局（JNTO）資料に基づき観光庁作成。

2024年の訪日外国人旅行者数を国・地域別にみると、アジア主要市場³からの訪日外国人旅行者数が2,906万人となり、全体の78.8%を占めた。

東アジアでは、韓国が882万人と主要23市場⁴のうちで最も多く、中国698万人、台湾604万人、香港268万人と続き、全体の66.5%を占めた。韓国、台湾及び香港からの旅行者数は過去最高を記録した。

東南アジアは、ASEAN（東南アジア諸国連合）の主要6市場⁵からの訪日外国人旅行者数が430万人となり、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン及びベトナムからの旅行者数は過去最高を記録した。北米主要市場⁶からの訪日外国人旅行者数は330万人となり、米国及びカナダからの旅行者数は過去最高を記録した。

² 税関（Customs）、出入国管理（Immigration）、検疫（Quarantine）の総称。

³ 韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム及びインドのことを指す。

⁴ 韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、インド、オーストラリア、米国、カナダ、メキシコ、英国、フランス、ドイツ、イタリア、ロシア、スペイン、北欧地域及び中東地域の計23か国・地域のことを指す。

⁵ タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン及びベトナムのことを指す。

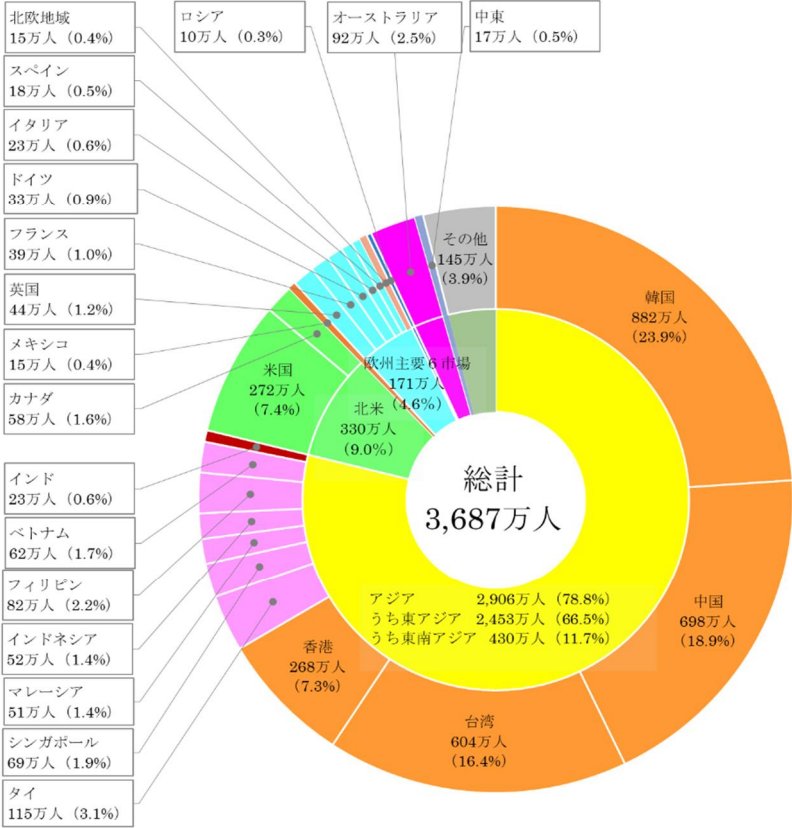
⁶ 米国及びカナダのことを指す。

欧州主要6市場⁷からの訪日外国人旅行者数は 171 万人となり、全ての国・地域からの旅行者数は過去最高を記録した。

オーストラリアからの訪日外国人旅行者数は 92 万人となった。

その他の地域では、南米が 16 万人、アフリカが 5 万人であった（図表 I－8）。

図表 I－8 訪日外国人旅行者の内訳（2024 年）

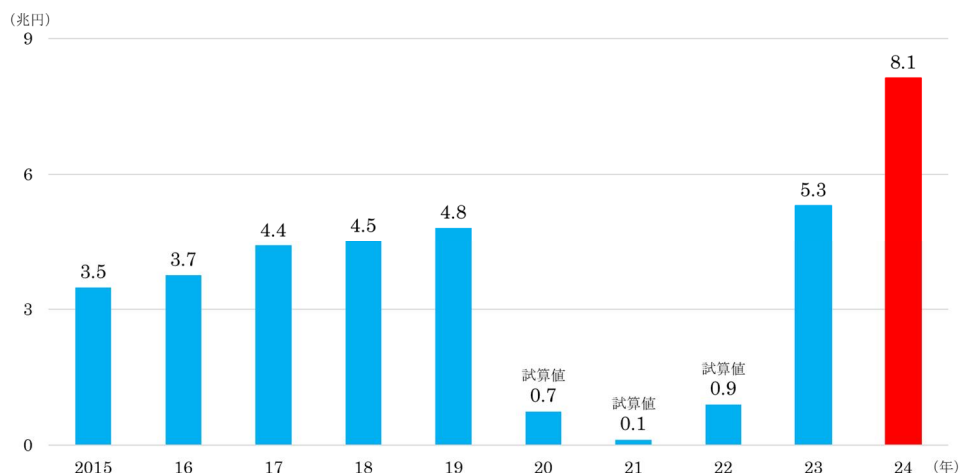


資料：日本政府観光局（JNTO）資料に基づき観光庁作成。
注1：（ ）内は、訪日外国人旅行者数全体に対するシェア。
注2：「その他」には、アジア、欧州等各地域の国であっても記載のない国・地域が含まれる。
注3：数値は、それぞれ四捨五入しているため、端数において合計とは合致しない場合がある。

⁷ 英国、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン及び北欧地域のことを指す。

2024 年の訪日外国人旅行消費額は8兆 1,257 億円(2019 年比 68.8%増)と、2023 年に続き過去最高を更新した(図表 I－9)。国籍・地域別にみると、中国が最も大きく、次いで台湾、韓国、米国、香港の順であった。2019 年と比較すると、中国の構成比が低下した一方、韓国や米国等の構成比が上昇した(図表 I－10)。

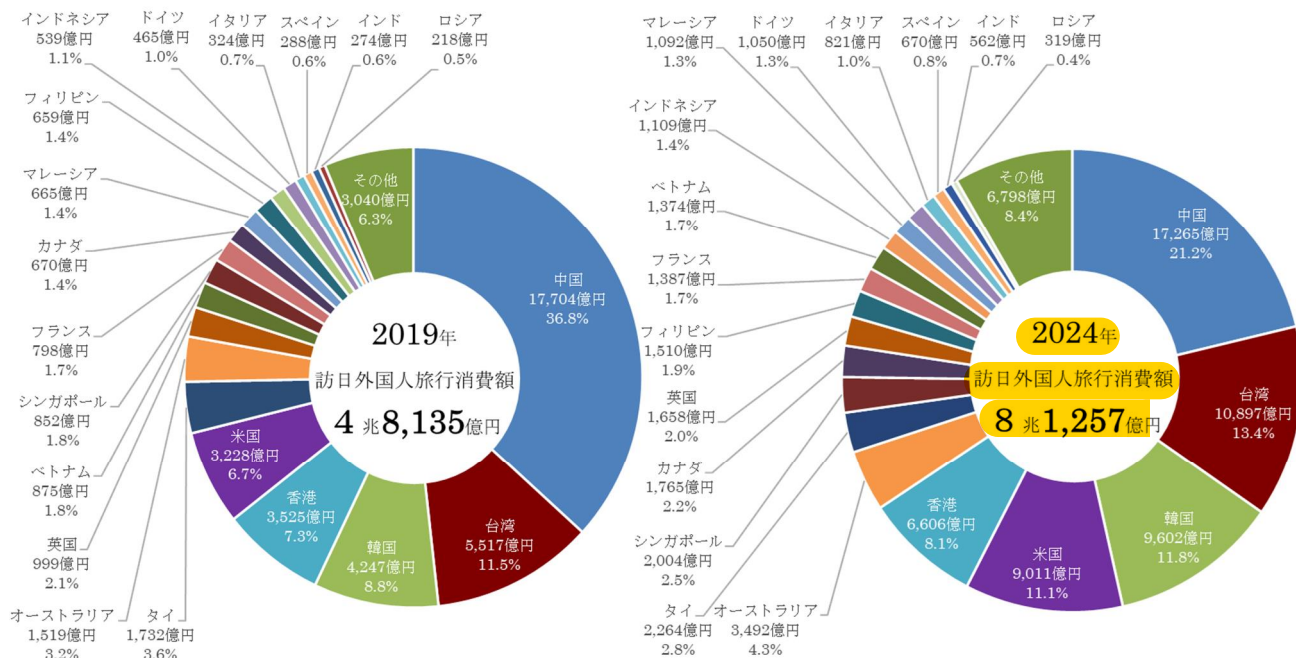
図表 I－9 訪日外国人旅行者による消費額の推移



資料：観光庁「インバウンド消費動向調査」

- 注 1：2017 年までは空港を利用する旅客を中心に調査を行っていたが、短期滞在の傾向があるクルーズ客の急増を踏まえ、2018 年からこうした旅客を対象とした調査も行い、調査結果に反映したため、2018 年以降と 2017 年以前の数値との比較には留意が必要である。
- 注 2：新型コロナウイルス感染症の影響により、2020 年においては 4－6 月期、7－9 月期、10－12 月期の調査を中止し、1－3 月期の調査結果を用いて、2020 年年間値を試算した。また 2021 年については、1－3 月期、4－6 月期、7－9 月期の調査を中止し、10－12 月期の調査結果等を用いて、2021 年年間値を試算した。そのため、2019 年以前の数値との比較には留意が必要である。
- 注 3：新型コロナウイルス感染症の影響により、2022 年は 1－3 月期、4－6 月期、7－9 月期を試算値として公表した。そのため、年間の値についても試算値であることに留意が必要である。

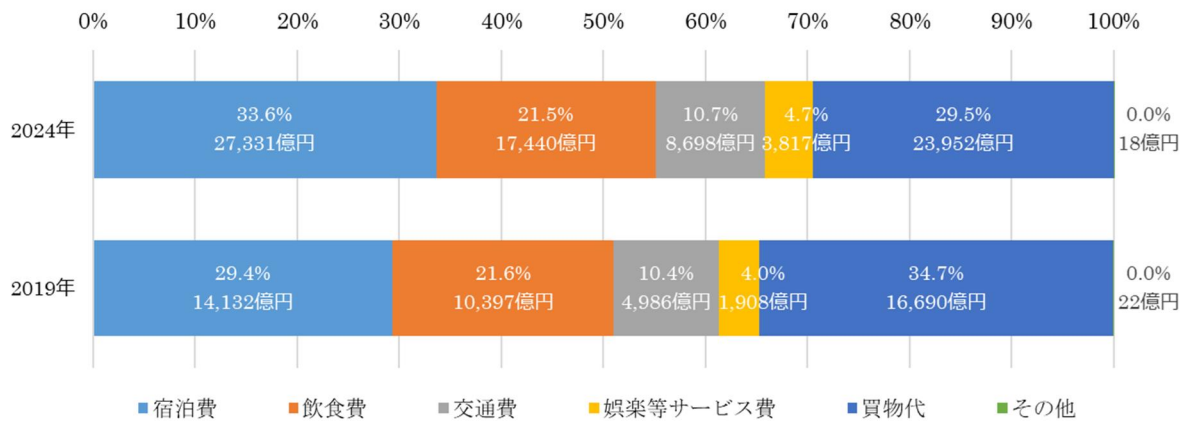
図表 I－10 国籍・地域別の訪日外国人旅行消費額と構成比



資料：観光庁「インバウンド消費動向調査」

2024 年の訪日外国人旅行消費額を費目別にみると、全体に占める割合では、宿泊費が 33.6%と最も高かった(図表 I－11)。

図表 I－11 費目別にみる訪日外国人旅行消費額 (2024年②)



資料：観光庁「インバウンド消費動向調査」

注 1：上段は旅行消費額の費目別割合。下段は費目別旅行消費額。